

# 「ともだちでライバルでもくひょうのパパ。」

私立神村学園初等部 二年 西岡 蓮

「れんくん、いい気もちだね。」

と、パパはぼくの手をぐいぐいひっぱります。

パパとぼくは、手をつないで学校に行きます。

パパの大きくてがっちりした手は、ぼくの小さ

くてやわらかい手をすっぼりとつつんでしま

ます。ぼくは、パパといっしょに歩きながら、

せみのぬげがらを見つげたり、はしのところか

ら川の魚を見たりします。

「ねえ、パパ。あれなあに。」

と、ぼくが聞くと、

「れんくん、あれはねえ…。」

と、パパはなんでもこたえてくれます。「パパ

の頭には、図かんが入っているみたいでかっ

いいなあ。」と、ぼくは思います。

パパは、びようしです。ぼくは、パパにかみ

の毛を切ってもらうことが好きです。パパみた

いにかっこよくなりたいたいから、

「パパみたいに切って。」

と、言います。パパは、はさみをなめらかにう

ごかします。シャキンシャキンとはずむ音をさ

せて、小さなぎん色のはさみが、ぼくのかみの

毛をさらさらっと切っていきます。

つぎに、パパはもつところが長いオレンジ色

のはさみにもちかえて、ぼくのかみの毛をたて

むきにしゅしゅつと切ります。

「しあげは、パパみたいなかり上げ。」

と言つて、パパが四角いきかきをブイーンと鳴

らすと、ぼくの頭の後ろからシャシャシャとい

う音がします。

「うっん、いい気もち。」

パパはそう言つと、かり上げたぼくの頭をなん

どもなでます。

「くすぐりたいよ。」

と、ぼくは言いながら、「パパみたいにかっ

よくなれた。」と、うきうきします。

パパは、おじごともし上手だけど、あそぶこと

も上手です。お休みの日に、キャッチボールを

したり、ビリヤードをしたりします。

「れんくん、パパすこくなく。」

と、パパは、ぼくにかつと言います。ぼくは、

本当はくやしいけれど、

「すこいね、パパ。」

と、言います。そうしたら、パパは「へへん。」

と、じしんまんまん顔になります。

ぼくは、「パパはあそびの天才だな。」と思

います。それは、どんなあそびも上手で、ぼくが

二回かったら、パパは五十回かっくらい強いか

らです。でも、キャッチボールでボールをとる

ことだけは、ぼくの方が上手です。

ぼくは、おじごとをするパパも、ぼくとあそ

んでくれるパパも、かっこよくて大好きです。

パパはぼくのいちばんのともだちで、ライバル

でもくひょうです。これからも、パパといっしょ

にいつばいあそんで、パパみたいなかっこいい

大人になりたいです。

パパ、いつか、ぼくがパパに五十回かてるく

らい、なんでも強くなるから、楽しみにしてい

てね。いつもありがとう。大好きだよ。